

第十六回

あなたにあいたくて

生まれてきた詩コンクール

—ことばはやさしく、こころはふかく—



令和七(二〇二五)年度

作品集

第16回

「あなたにあいたくて生まれてきた詩」

コンクール

—ことばはやさしく、こころはふかく—

令和7(2025)年度

作品集

宗そう
左近さこん

(一九一九〜二〇〇六年)



北九州市戸畑区生まれ。本名は古賀照一ふるいち。詩人、評論家、仏文学者、翻訳家。東京大学哲学科卒業。詩集『炎える母』で歴程賞を受賞。晩年には『響灘』など一行詩の作品を発表。また古今東西を超えた美術評論を行い、著書に『日本の美 その夢と祈り』などがある。また翻訳ではエミール・ゾラ、モーパッサン、ロマン・ロラン、アガサ・クリステイの作品のほか、ロラン・バルト『表徴の帝国』なども手がけた。詩歌文学館賞、チカタ賞、北九州市民文化賞を受賞し、日本現代詩人会から「先達詩人」の顕彰を受けた。

この詩のコンクールは、北九州の生んだ詩人、宗左近さんとみずかみかずよさんの業績を記念して行われるものです。

「あなたにあいたくて生まれてきた詩」は、宗左近さんの編んだ詩集のタイトルから、「ことばはやさしく、こころはふかく」は、みずかみかずよさんのことばからいただきました。

みずかみかずよ

(一九三五〜一九八八年)



北九州市八幡東区生まれ。詩人、児童文学作家。幼稚園勤務のかたわら、詩や童話を書き始める。その後、児童文学誌「小さい旗」に参加。その作品は、小学校の国語教科書にも採用され、また児童合唱曲にもなった。詩集「いのち」で第五回丸山豊記念現代詩賞を受賞。代表作に「馬でかければ」「ぎんのストロー」「ごめんねキュービー」など。北九州市民文化賞を受賞。

目次

いじめごっこ

1

〈小学生の部〉

連続	能美	にな	2
パピヨン	村上	心乙	3
人と感情	西本	和高	4
探している	菊地	優晴	5
ようけいじょうに行ったよ	市江	咲彩	6
入学式のなかつた私たち	中島	光希	7
たいようのみち	萩原日向子		8
光のつぶ	若狭	早	9
私の心のまど	稲田	奈那	10
絵を書くのがすきなわたし	早川	叶絵	11
お世話係	八尋	楓月	12
へびとネコのバトル	石崎朔太郎		13
特別な存在	田中	莉桜	14
この後何しよう	濱口	結衣	15
豆の芽	石橋	風人	16

〈中学生の部〉

理科室について	小笠原	快	18
風のととに残るもの	中村きらら		19
青い空に	松本	空也	20
踊る	劉	昕萌	21
スキップ	中川	幹	22
人たる者の生涯	高田	咲愛	23
風の宅配	芳賀	董	24
覚えていない祖母の話	鬼束	士郎	25
雲外蒼天	桑名	優空	26
赤	土屋	舞桜	27
塩水	西本	陽香	28
月	野原	啓太	29
わかつているのに	千手真太郎		30
僕の家のカメレオン	神徳	充生	31
人生行路	吉國友美乃		32

選評

小学生の部 受賞作品	34
最終候補作品	36
中学生の部 受賞作品	37
最終候補作品	38
選考委員	39
	40

ごあいさし



北九州市長 武内 和久

「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクールの各賞を受賞された小中学生の皆さん、そしてご家族の皆様、心よりお祝いを申し上げます。

また、平出隆先生をはじめ選考委員の皆様、関係者の皆様には、子どもたちが自由に言葉と向き合い、のびのびと表現する機会を支えていただいていることに、深く感謝申し上げます。

このコンクールは、北九州市出身の詩人、宗左近先生とみずかみかずよ先生を顕彰するとともに、子どもたちの豊かな想像力や表現力を伸ばし、未来の詩人・作家が誕生することを願って、2010年度から開催しています。

16回目を迎える今回は、全国から800件を超える応募がありました。その詩の一つひとつに、子どもたちの瑞々しい感性があふれ、それぞれの視点や心の動きが丁寧に込められていました。

北九州市は、宗先生、みずかみ先生をはじめ多くの詩人を生んだ、言葉の文化が息づくまちです。皆さんが紡いだ詩もまた、読む人の心に届き、確かに受け継がれていくことでしよう。

どうぞこれからも、たくさんの本や文章に触れ、友だちと語り合い、自分の思いを言葉にすることに挑戦し続けてください。皆さんが言葉を大切にし、その奥深さを楽しんでくれることを願っています。

北九州市としても、この作品集が私たちの心に温もりをもたらしてくれるように、文化や芸術を通じて、日々の暮らしに「豊かさ」や「彩り」を感じられるまちづくりを進めてまいります。

結びに、小・中学生の皆さんの未来への飛躍と関係各位のご健勝を祈念するとともに、このコンクールが子どもたちの言葉をつなぐかけがえのない場として末永く続いていくことを願い、挨拶いたします。

連綿

明治学園小学校 六年 能美 にな

昨日のわたしが 言っていた
「ちょっと失敗 しちゃってさ」
今日のわたしは こう言うの
「あとはまかせて 大丈夫」

今日のわたしは おもいきり
いまを楽しみ 生きている
とんだり はねたり あそんだり
たべて しゃべって うたってる

まかせてなんて 言っただけ
いまを楽しみ 生きるだけ
わたしのなかに 燃えている
いのちを今日も 生きるだけ

いちにち生きた 終わりにには
明日のわたしに こう言うの
「ちょっと 失敗したかもね
それでも わたし 楽しんだ」

明日のわたしは こう言うわ
「あとはまかせて 大丈夫
あなたが思う 失敗を
わたしは よぶわ『思いつ』と」

昨日のわたしが 今日になり
今日のわたしは 明日になる
そうして わたしは続いてく
明日の天気が どんなでも
わたしは ずっと 生きていく

最優秀賞

宗 左 近 賞

パピヨン

東神楽町立東神楽小学校 五年 村上 心乙

みずかみかずよ賞

最優秀賞

私はあなたにあこがれる
太陽の下で優雅にヒラヒラ舞う
その姿はまるで
バレリーナのように
私はそんなあなたが大好き

私はあなたにあこがれる
街灯の下で力強くバタバタと舞う
その姿はまるで
フラメンコのように
私はそんなあなたが大好き

私はあなたにあこがれる
体が細くてスタイル抜群
その姿はまるで
モデルのように
私はそんなあなたが大好き

私はあなたにあこがれる
体がぼつちやりしていてかわいらしい
その姿はまるで
ゆるキャラのように
私はそんなあなたが大好き

私はあなたにあこがれる
みんなに愛されながら
自分らしく生きている
その姿はまさにあなたそのもの
私はそんなあなたが大好き

私はあなたにあこがれる
だれになんと思われようと
自分らしく生きている
その姿はまるであなたそのもの
私はそんなあなたが大好き

広い世界には
あなたと私を区別せず
同じ名前でもんでくれる
そんな国があるという
いつかあなたと行ってみたい
いつかあなたと行ってみたい

人と感情

北九州市立守恒小学校 五年 西本 和高

人の生きる源とはなんだろう

命

忍耐

勇気

いろんな意見がとびかう

でも分らない

人の内側を見るのはこわい

人は真面目に生きている

でも

せっかく生まれてきたのに

人は争う

人は殺し合いのために生まれてきてないのに

人は戦争の道具じゃないのに

人は争う

感情がある限り

でも

感情がないと

人はただのロボット

決められた作業しかしない

すぐにこわれる

使い捨ての

だから

憎しみや悲しみでも

感情はいる

でも

感情が強すぎると

憎しみで争い

悲しみで孤独

とてもさみしい

感情は難しい

ぼくは思う

感情こそが

生きる源だと

感情は強い

一度思ったら

なかなか消えない

人は難しい

でももつと

感情は難しい

優秀賞

北九州市教育長賞

探してる

名取市立増田小学校 三年 菊地 優晴

モンシロチョウは探してる

美味しい蜜を探してる

どの花の蜜が美味しそうかな

チューチューゴクゴク

あー美味しい！

ヒトスジシマカは探してる

美味しい血液探してる

どこらへんが美味しそうかな

チューチューゴクゴク

あー美味しい！

アゲハチョウは探してる

卵を産むとこ探してる

お！ここらへんがいいと思うぞ

よし！頑張るぞ！

よし！産めた！

フンコロガシは探してる

転がす糞を探してる

この大きさが丁度いいかな

コロコロコロコロ

転がせた！

ようけいじょうに行つたよ

北九州市立高見小学校 二年 市江 咲彩

ようけいじょうに行つたよ。

ばん犬が四ひきいたよ。

ワンワンほえたよ。

にわたりのへやに行つたよ。

にわたりのへやははずしかなかったけど、

くものすがいっぱいだったよ。

にわとりは、はんとしでたまごをうむよ。

二十五じかに一こたまごをうむよ。

はじめて見るたまごがあつたよ。

からが二じゅうになつてたよ。

わるとたまごのからがまた出てきたよ。

ふたごのたまごは大きくて、

びつくりしたよ。

さいごにたまごのパックづめをしたよ。

きゅうらんきでたまごをつかんでいれたよ。

たまごがおちそうでこわかつたよ。

パックをホッチキスでとめたら、かんせいしたよ。

おみせでうられるよ。

だれかが買ってくれるといいな。

家にかえてたまごをつかつて、

ホットケーキをつくつたよ。

きみがきいろでとてもきれいだったよ。

ホットケーキはふわふわで、

あまいかおりがしたよ。

いつもよりおいしくできたよ。

入学式のなかった私たち

北九州市立中原小学校 六年 中島 光希

はじめてみんなに会ったのは

じんわり暑い夏だった

うるさいくらい鳴くセミが

うらやましかったのを覚えている

教室には

顔が半分見えなくて

目と目で笑い合う私たち

かさこそ落ち葉がまうように

「はやくたいおんがはかれるようになりたいおんけいをください」

六さいの私のサンタさんへの願い事

プレゼントの体温計はこわれてしまい

あたたかい春がやってきて

当り前のように桜もさいて

私たちの上には

高く高く

力強く続くまぶしい青い空

次の桜を見るころは

私たちの卒業式

入学式のなかった私たちの卒業式

たいようのみち

朝霞市立朝霞第一小学校 二年 萩原 日向子

うみに うかんだ

たいようのみちは

めらめら ちかちかと

かがやく

ぽっと 光がはじけて

ほたるが

小さな点になって

あつまった

せかいの

にじ色と 金色は

たからもの

さつと

わたしの 心に

しまっておく

光のつぶ

愛媛大学教育学部附属小学校 二年 若狭 早

お日さま ルンルン

まぶしいね

たくさんできたよ

ブルーベリー

水やり リンリン

いい気持ち

元気がつまった

ブルーベリー

青むらさきに

色づいて

つやつや光れば

食べごろなんだ

朝一番に

つみとろう

とげとげイラガに

気をつけて

ルンルン リンリン

ブルーベリー

光のつぶは

夏のはじまり

私の心のまど

北九州市立曽根東小学校 五年 稲田 奈那

私の心にはまどがある。

いつも閉まったままの、古くて小さなまど。

まどの向こうには、太陽の光がまぶしい校庭が見える。

みんなの笑い声が、風に乗ってかすかに届く。

それは私が知らない世界。

私の知らない、みんなの世界。

まどガラスには、いつのまにかほこりが積もって、外の景色がぼんやりとしか見えなくなってしまった。

このまどは、学校へ行きたくない日の朝になると、いつもより重くなる気がする。

本当は学校が好きなのに、本当はみんなと遊びたいのに、このまどが閉まったままだから、私は行きたくないと思ってしまう。

チャイムが鳴って、先生がやってくる。

「おはよう！」

元気な声が教室にひびく。

みんなはもう、だれかと笑いあっている。

私はただ一人で座っている。

かつては、いつもだれかと一緒だった。

休み時間には絵をかいて、放課後にはいつもの帰り道を歩いた。

でもいつからだろう。

ほんの少しの言葉の行き違いから、私は一人になってしまった。

私の心のまどは、その日から、びたりと閉まった気がする。

あの頃の私の心は、まども扉も開けっぱなしだったのに。

休み時間。

みんなは楽しそうに、鬼ごっこをしている。

仲良しの友達と、おしゃべりしている。

私は、教室の自分の机でただ本を読んでいる。

あるいは、図書室の隅で知らない物語の中へにげこむ。

まどの向こうのみんなの笑顔は遠くて、私とは違う場所にいるみたいだった。

「このままじゃ、ダメだ。」

私は心のまどの鍵に、そっと手をかけた。

少しまどを開けてみると、やさしい光が私の心の中に入ってきた。

まどから顔を上げると、クラスの友達が私に笑いかけてくれた。

私は少しだけおどろいて、そしてうれしくなって、小さく笑い返した。

まどを開けるって、こんなにも温かい事なんだ。

そう信じて私は小さな一歩をふみ出す。

絵を書くのがすきなわたし

神戸市立普の台小学校 二年 早川 叶絵

わたしは絵を書くのがすき。

年中ぐらいから書いているよ。

おきにいりのペンは0.7のアクロボール。

ママから見たら、手がかってにうごいてるみたいに見えるんだって。

絵を書くときは4コママンガを書いているよ。

しゅじんこうがいるけれど、それはひみつ。

キャラクターは40人ぐらいいるんだ。

話は、テレビで見たことや、きょうあったことで書くよ。

このごろは4ページぐらい書くよ。

小学生になって、しゅくだいが多いから。

ほんとはもっと書きたいんだけどな。

4コマでおわらなくて、12コマぐらい、書くときもあるよ。

お世話係

福岡市立片江小学校 三年 八尋 楓月

わっ なんだか動いているぞ
どこにつれていってくれるのかな
暗くなってきた こわいな

あつ おふとんをかけてくれた
温かいな うれしいな

君は私のお世話係

毎日シャワーをしてくれる 気持ちいいな
うーん そろそろおきようかな

わあっ 外はとっても明るいぞ

君がよろこんでいる

君が毎日シャワーをしてくれるから

私はどんどん大きくなるよ

せがのびて 手足がのびて

ニヨキニヨキ クルクル ポンポンパッ

まあっ 今日の君はとでもうれしそう

君の声が聞こえるよ

やったー さいた 水色だ きれいだな

そう 私は朝顔

君が一年生の時に育てた朝顔

それからとれたたねを

二年生でも植えてくれた

二年生でとれたたねを

今年も植えてくれた

私は一年生の時の朝顔のまご

君が大事なお世話をしてきているから

毎年お花をさかせる事ができるんだ

今年も大事なお世話をしてきているから

きつとたくさんお花がさくよ

私はたくさんお花をさかせたいよ

大すきな君の うれしい顔が見たいから

そして来年もまた会おうね

へびとネコのバトル

北九州市立高見小学校 二年 石崎 朔太郎

ぼくとパパとママとおじいちゃんとおばあちゃんとおとうとと、あかちゃんのおとうとで、じんじやにいった。

くさむらのところの石の上に、ネコ。

いきなり、へびが出てきてかみついた！

おじいちゃんが

「どくをもっているから、ちかづかないほうがいいよ」といった。

おじいちゃんは先生だったから、ちかづかないようにした。

ネコは、「ニャー！」とはいわなかったけど、「ニャー！」といいそうに、大きな口をあけた。

ネコがひっくりかえって、へびがガーってかみつこうとしたけど、よけた。

ネコがへびをひっかいた。なんかいもひっかきまくった。

へびがぐたつとたおれた。しんだかもしれない。

おじいちゃんが

「あぶないから、もういこう」といった。

へびはそんなに足がはやくないから、ぼくはもうちよつと見たかった。

うしろをちらつと見たら、黒っぽいものが見えた。

へびにげたのかもしれない。

バトルはネコのかち。

すごいバトルだった。

どうしても見たかったから、もう一かいてもどつたら、へびのしっぽがのこつた。

ネコはもういなかった。

ネコはへびにかまれたけど、すぐシャキンとしたから、どくはまわらなかつたかもしれない。

ネコがへびを食べちゃったのかもしれない。

へびはにげたのかもしれない。

特別な存在

北九州市立池田小学校 六年 田中 莉桜

暗い星がある

その星はじっとしていて動かない

水の中でゆらゆらダンス

星はぴたっとダンスを止めた

女の子がやってきた

何かをやったそうでやらず、

不安な顔をしていた

ぼくをこわがっているかのように

女の子は目をつぶりながら

水の中に

おそろおそろ手をのばした

ぼくにふれて、その子のまゆげが

おかしくなった

「ねえママ。

海に星がうつっているように見えるよ。」

そう言って、いつの間にか

笑顔になっていた

ぼくが見た景色は、

明るい星が

キラキラ上がっているようだった

なんだかぼくは

特別な存在

だと感じた

この後何しよう

横浜市立港北小学校 四年 濱口 結衣

これが終わったら何しよう

楽しいことがいいな

外に出て遊ぶ

何しよう

これが終わったら何しよう

つまらないことがいいな

家にこもって遊ぶ

何しよう

何が一番楽しくて、なにが一番つまらないのかな

家で遊ぶのが楽しくないかな

外で遊ぶのが楽しいのかな

これが終わったらなにしよう

やっぱりふつうにいつものように遊ぼうかな

やっぱり友達といっしょにいつもとちがうことをしようかな

豆の芽

北九州市立池田小学校 六年 石橋 風人

豆の芽だ

豆の芽には夢がある

ジャックみたいにならないが

ゆっくりとぐんぐん育ち

大きな木へと育ってく

そして実ができ種ができ

みんなの所へやって来る

豆の芽だ

豆の芽には夢がある

理科室について

麻布中学校 二年 小笠原 快

とても静かな理科室で
私、とても一人なんです

空は、なんだか狭くなりました
カブトムシかっこいいと言えた日
あれは、いつだったでしょう

理科室を出たら

この匂いすら、忘れますか

寝苦しい呼吸を繰り返す夜
サンタクローズに会いたいと願います
サンタクローズ、サンタクローズ
呪文みたいに、唱えます

朝起きて

私はやっぱり、一人です
たぶん、ずっと一人です

でも、

幸せだとも思います

いつか忘れる理科室で
こんなにも静かに、丁寧に、
深呼吸ができるのですから

朝日は何も言わずに
光っています

最優秀賞

宗 左 近 賞

風のあとに残るもの

北九州市立松ヶ江中学校 一年 中村 きらら

誰もいない午後の路地で

薄く笑った影が ふと止まる

指先に触れたのは

まだ名前のついていない感情だった

透明な声で 誰かが歌っている

聴こえるか聴こえないかのあわいで

光が差し込みすぎず

涙はこぼれきらず

ただ そこにあった

見過ごしてしまう人もいる

けれど私は

その小さな気配を胸の奥に

そっと しまう

言葉にできないもの程

確かに ここにいるから

最優秀賞

みずかみかすよ賞

青い空に

北九州市立松ヶ江中学校 一年 松本 空也

青い空に

ぼつんと浮かぶ 赤い風船

ぼくが 手をはなしたんじゃなく

風船が空に行きたがつたんだと思う

風は やさしく

でも つよくて

ぼくの手を そっとほどいていった

あの風船には

ぼくの気持をこめた

ぼくの心のなかには

少しだけ

あかるい風が ふいていた

優秀賞

北九州市教育長賞

踊る

九州国際大学付属中学校 一年 劉

昕萌

白い舞台

真っ白い舞台

辺りには何も無い

私はバレリーナ

小さなマス

四角形の小さなマス

音楽が聞こえてくる

私の足が自然に動く

音楽が止まる

明るい音楽が止まる

辺りは静けさを取り戻す

私はつまずいて転ぶ

走ってくる

医者が走ってくる

私に手を差し伸べて

私の失敗も消してくれる

流れ続ける音楽に合わせて

私はまた踊り出す

音楽が終わる

眩しい音楽が終わる

私も踊り終える

今日の仕事もあっという間に終わり

「また明日」

と

筆箱の中で眠る

スキップ

九州国際大学付属中学校 一年 中川 幹

入学して約三ヶ月
中学校生活にも慣れてきた

学校の先生達はぼくを見て
「学校生活楽しそう」と口々に言う
それはなぜか

ズバリ スキップ
ぼくがよくスキップをしているので
先生達はスキップ⇨学校生活が楽しい
と思っているらしい

ここでハッキリさせておきたいのが
ぼくはうかれてスキップを
しているわけではないということ

スキップはぼくにとつての
移動手段
ろう下は歩かなければ
ならないのがルール
ただ少し急がなければならぬ時
ぼくが思いついたこの方法

実際先生達はぼくを見てホッコリ
ぼくは歩くより早く移動できてバッチリ
あつもう一つ言っておきたいことがある
ぼくは学校生活が
とてつもなく楽しいということ

えげつない勉強の量にビックリする
こともあるが
先生 友達 家族がいて
面白くのりこえられているということ

さて次は音楽か
スキップ スキップ

人たる者の生涯

春日市立春日北中学校 三年 高田 咲愛

序詩

たとえ人は罪を犯しても
罰を受けようと、
しないのですね

今日もまた、
きつと誰かの叫び声が
また次々と
きつときこえてくるでしょう

——そこもまた、
私は美しいと思います
人たるものの美しさが——

ほおらまた
きこえてきた！

Ⅱ 空耳

とくとく
かさかさ
耳に落ちてくる
わきでてくるのです

それが何かは分からない
でも なぜだか
いなくなつてはならない
です

とくとく
かさかさ
君達とはずっと
——一緒ですわね！

Ⅲ 小鳥

あたりはまっくろですわね
あらかじめ
どこかで罪を犯し
あらかじめ
どこかで罰を受ける

そんな人生
あたりまえだけど
あたりはまっくろですわね

野原を想像して
はらっぱを妄想する

ああ！ 忘れていました
私はどちらもかけめぐる
小鳥です

風の宅配

国府台女子学院中学部 一年 芳賀 董

春が大好きなカラスは

春を送らなければならない

かなしくてみんなでばいばいと

笑った

でも、その声は

「ガア」

と聞こえてみんなが嗤う

幸せなのは

わからない

けど春は咲って、太陽のぼる

カラスははばたく、高く、高く

春の季節でまたくるように

「春休んでね」

そう思いながら

暑い夏に風を届ける

黒いつばさをぶきみに

笑う人がいても

ずっとはばたく夏の毎日、

めぐみの春は祝いながら

覚えていない祖母の話

九州国際大学付属中学校 一年 鬼束 士郎

父方の祖母のお墓参りに行ってきた。祖父、父の兄妹とその家族が集まった。コロナの影響で、みんな久しぶりだった。従兄は結婚して奥さんと子供がいた。従姉妹たちも、とても成長していた。みんなが祖母のために、ここに集まった。祖母が亡くなってから十年の時が経っていた。僕は祖母に会ったことがあるらしい。でも、ほとんど覚えていない。覚えていない人のお墓参りをするのは、不思議な気分だった。ましてや最近生まれた子供や結婚して家族になった人などは、祖母を全く知らないだろう。でも、祖母を知らない人たちも祖母のためにここに集まった。

何のために？

お墓参りとは何のためにあるのだろうか？僕は「何かのためにお墓参りをする」のではなく、「何かがそこにあったからお墓参りをする」のだと思った。

祖母は優しい人だったらしい。

遺影の写真も優しい顔をしていた。

確かにこの世にいた。知っている知らないの話じゃなくいたんだ。

優しく、家族を思った一人の女性がいたから、僕たちはここに集まったんだ。

今生きている人の役目は何か。

いろんなことがあるだろう。

その一つに、お墓参りがあると思う。

亡くなった人はもう生き返らない。

決してしゃべったり体を動かしたり息をすることも、考えることもできない。でも今を生きているのは生者であるばかりだから。

死者を思うことができるのは生者であるばかりだから。

亡くなった人がどんな人だったから、どんな声でどんな見た目だったのか、ばくはそれを感じることはもうできない。でも、思うことはできる。

確かに祖母が生きていたことを証明できるのは、ここにいるばかりなんだと理解した。

ばかりには祖母を思う責任があると、そう思った。

ばかりにはその祖母のお墓をしつかり洗った後、線香をあげた。

雲外蒼天

郡山市立大槻中学校 一年 桑名 優空

今日は 曇天

少しも縮まぬタイムに おすくれる
まわりがキラキラ 眩し過ぎて
暗い中を光って見える まさに羨望だ
腐る心に 一人 靴紐をキツと乱暴に結ぶ

きつと誰も知らない
心がドロドロに泡立って異臭を放出するのを
きつと誰も知らない
焦れば焦る程に 思考力さえ汚れていくのを
きつと誰も知らない
ボロボロの私を
心が濁るのを嫌うのに 涙がにじむ
ああ 今日は曇天
降り出す前に もう一本

あと一秒 前に
あと一秒 はやく
走っている時に 思う
誰かに勝ちたいんじゃない
走ることが楽しかった あの時を感じたい
自分と戦う競技だなあ
敵は 戦うべきは わたし自身だと

これ以上 黒く腐り濁る心をほっとけない

私は わたしに 勝ちにいく
「走るのが好き」と無邪気に笑う私に
胸をはっていたいから
あのキラキラ輝いてた 純真な空を走りたくて

勇んで勝ちにいけ私よ
さあ走れ もう一本 突き破れ
それほど厚いものでない
今を大いに苦しもう私よ
じきに晴れるよ

赤

豊橋市立豊城中学校 二年 土屋 舞桜

夜空に花が咲いている

瞳に映る赤が

ゆっくりと世界を染めていく

花が世界を揺らしている

耳に響くあの音に

人々ははっと振り返る

花が夜を照らしている

どこか寂しげなその光で

誰も彼も魅了する

赤い花が散っていく

弧を描いて

花は少しずつ溶けていく

赤は黒に侵食され

いつしか闇に変わってしまう

まるで終わりを告げるように

私の中の何かが

端から少しずつ消えていく

花と共に散っていく

どうしてこんなに悲しいのだろう

どうしてこんなに赤が残るのだろう

塩水

横浜市立松本中学校 一年 西本 陽香

あなたがそれを
口にできるのが羨ましい
羨ましくてたまらない

これは私の一種の
後悔であり 嫉妬であり
尊敬であり 妬みであり
疑いであり 漆黒の異物であり
やはり嫉妬である

それを口にしなかった
私の巻きもどしようなない
焦りと欲のかたまりだ
それをあなたに押しつけた

罪深く 罪深く 晴れる気配のない
それをあなたに押しつけた
私の重荷であるのか、私の責任であるのか
あなたの、私の、私の……

ところがぐるぐるしている
あたまもツツ…ツツといている
目尻もじゅわじゅわ考える

あゝ わたし
言わなかったこと
後悔しない
言わなかったこと
後悔したい……

私を決して許さないで欲しい
私のとげが見つからぬように
自らの傷に塩水を塗って……浸して……
欠けた部分が目立ってしまうように……

月

岩国市立灘中学校 一年 野原 啓太

夜空に浮かぶ

やさしい光

誰もが見上げるその姿は

いつも変わらないほほえみを見せる

誰もが静かに輝く表だけを見つめ

月を知ったつもりでいる

だけどだれも月の裏を知らない

月は表しか見せない

本当の姿を隠したままだ

私たちが裏を隠してしまう

ただ上手に生きるため

でも本当は誰かに見てほしいのかもしれない

月も裏を照らしてほしいのかもしれない…

わかっているのに

九州国際大学付属中学校 一年 千手 眞太郎

手を取り合っていていきたいのに
傷つける手が変わっていく

譲り合いたいののに

誰かのを奪ってしまおう

一緒に笑いあいたいののに

指をさして笑おう

語り合いたいののに

ののしってしまう

憎しみ・怒り・孤独が心を曇らせていく

本当はそんな自分が嫌い

止められない弱さに

いらだち また落ち込んでしまおう

心は氷河期だ

でも、心の隅で小さく光る光がある

その光が、凍った心を溶かそうとしている

この光をたいまつのようにしたい

孤独をいやすのは孤独ではない

差し出された手を素直に握ったとき

初めて燃え上がる

間違えても失敗してもきつとやりなおせる

今日よりも少しでも優しさのあふれる明日へ

優しさの手を離さない

歩いた道は消せなくても

歩んでいく道は自由に描ける

真っ白なキャンパスに虹色の道

たいまつを消すことなく

歩んでいく

いつかいつの日か

誰かの火をともしせるように

僕の家のカメレオン

北九州市立松ヶ江中学校 一年 神徳 充生

ある日、家族と一緒にいったペットショップ
誰かに見られてるような気配がして振り返ると一匹のカメレオンと目が合った一気に体の色が緑から土の色に変わる感情の変化を体の色で表す動物それがカメレオンいやな時は土の色落ち着いた時はきれいな黄緑色心を映すパレットだ何だか忘れられずに数日後には我が家にお迎えしたゆっくりゆっくり動くカメレオンご飯の時はペロリと舌をのばして口に運ぶまるで忍者だ葉っぱのうらに身をかくして名前を呼んでも返事はないけど首をかしげたり目をキョロキョロさせて時々僕の指を二またに分かれた手でぎゅっつとにぎってくる君が僕の家に来てくれていつも君を気にしてるきみの体の色と同じように僕の生活もあざやかに変わりはじめた

人生行路

明治学園中学校 三年 吉國 友美乃

今日も私は 歩きつづける

世界のどこかに住む

あなたという運命の人を求めて

遠い国に住んでいて

私と生活のレベルが違って

一生会うことがない人かもしれない

それでも私は探し続ける

自分と共にこの生涯を過ごしていく人を

たどえあなたに恋人ができて

私が別の人と付き合い

結婚することになったとしても

私はあなたを探し続ける

運命の人よ

私と共に旅を始めないか

あなたは一度会った人かもしれない

仮に二人で旅を始めても

すれ違いが起きてしまつて

もう二度と会えなくなるかもしれない

でも私はあなたを求めて

どんな犠牲をはらつても探し続ける

島に行くことになつてもいい

海外に行くことになつてもいい

砂漠を歩くことだつてかまわない

だつて私はあなたが好きだから

この長く終わりのない旅の

終点をも求めて

今日も私は あなたのために

長い長い旅を続ける

平 出 隆

小学生の部の宗左近賞は、能美にな「連綿」です。昨日のわたしから今日のわたしへ、明日のわたしへと、言葉がバトンのようにリレーされていきます。とくに明日のわたしが今日のわたしにいうだろう言葉「あなたが思う 失敗を／わたしは よふわ『思い出』と」が秀逸です。「一日」の規則正しい区切りに七五調の定型もふさわしく、タイトルの抽象性もここでは効果的です。

みずかみかずよ賞の村上心乙「パピヨン」も見事な構成です。蛾と蝶とでは、一般に蝶のほうがきれいに思われている。ところが、作者が両者の声に交互に耳を傾けると、互いの個性を称え合っているのです。最後の連では、両方が同じ名の国に一緒に行きましよう、と終ります。相手の個性を敬い、共通点を響き合わせて友愛を確かめようとする。そんな大きな心が作者にあります。

優秀賞の西本和高「人と感情」は人類全体について考えながら、生きる源としての「感情」の重要さに気づく詩です。その重要さについて最後に、「感情は難しい」と言い切っているところ、気づきの深さが現れています。菊地優晴「探してる」はさまざまなきものが、それぞれに別のなにかを探している、という括り方をしていくことで、観察だけではなく、知識や認識への関心が芽生えています。市江咲彩「うけいじょうに行ったよ」は養鶏場の見学を、細かなところまでいきいきとした観察眼で記録していて、感情のリズムが楽しいですね。

中学生の部の宗左近賞は、小笠原快「理科室について」です。だれも見知っている理科室について、やさしい言葉で書かれているのに、



© Takashi Mochizuki/ ©望月 孝

平出 隆

北九州市門司区生まれ。
詩人・作家・多摩美術大
学名誉教授。装幀家、造

本家としても知られる。

一橋大学在学中から詩と詩論を発表しデビュー。1974年に仲間とともに版元・書紀書林を構え、翌年、詩誌「書紀」を発刊。70年代の詩的ラディカリズムの先端を担う活動を展開。

詩集『胡桃の戦意のために』で芸術選奨文部大臣新人賞、散文作品集『左手日記例言』で読売文学賞、散文集『ベルリンの瞬間』で紀行文学大賞、評伝『伊良子清白』で芸術選奨文部大臣賞、藤村記念歴程賞など受賞多数。また木山捷平文学賞を受賞した小説『猫の客』が2014年、世界的ベストセラーとなった。

イメージの大胆な切替えが次々と起ります。予想を裏切る進行が、調子が静かなだけにかえって、ふしぎな気分させます。それでも確実に、語り手は特別な空間に浸っています。ところで、理科室に寝泊まりする、この語り手はだれなのでしょう。理科室を一つの宇宙に見立てた飛躍があり、飛躍があくまで静かなところに、作者の力量があります。みずかみかずよ賞は中村きらら「風のあとに残るもの」です。かすかなもの、透明なもの、聴こえるか聴こえないかの「あわい」のもの、そんな微妙な、見過ごしてしまう小さな気配が見つけられます。「言葉にできないもの程」という言葉を書くことができました。

優秀賞の松本空也「青い空に」は、風船が手から離れていくときの感覚と感情が細やかです。風船の心を思いつつ、風の優しさと強さを同時に感じ取っているところが優れています。劉昕萌「踊る」は踊り子の踊りかど読み進めると、どうやら筆記具の動きで、原稿用紙のマス目の中のダンス。この詩も、そんな筆記具の踊りによって書かれたのかと気づかせる、幻想性のある巧みな作品です。対照的に、中川幹「スキップ」は明快そのもの。校則の隙間をついて、学校の廊下をスキップする現実の作者の姿が、そのまま詩の姿になって躍動します。

小学生の部

受賞作品

最優秀賞	宗 左 近 賞	最優秀賞	連続	のう	美	に	な	明治学園小学校	六年
最優秀賞	みずかみかずよ賞	パピヨン		むら	かみ	こ	と	東神楽町立 東神楽小学校	五年
優秀賞	北九州市市長賞	人と感情		にし	もと	かず	たか	北九州市立 守恒小学校	五年
優秀賞	北九州市教育長賞	探してゐる		きく	ち	まさ	はる	名取市立 増田小学校	三年
北九州市立文学館長賞	優秀賞	ようけいじょうに行ったよ		いち	え	あや		北九州市立 高見小学校	二年
佳 作	入学式のなかつた私たち	中島光希		なか	しま	みつ	き	北九州市立 中原小学校	六年
	たいようのみち	萩原日向子		はぎ	わら	ひなこ		朝霞第一小学校 朝霞市立	二年
	光のつぶ	若狭早		わか	き	そう		愛媛大学教育学部 附属小学校	二年
	私の心のまど	稲田奈那		いな	だ	な		北九州市立 曾根東小学校	五年
	絵を書くのがすきなわたし	早川叶絵		はや	かわ	かな	え	神戸市立 菅の台小学校	二年
	お世話係	八尋楓月		はや	ひろ	か	つき	福岡市立 片江小学校	三年
	へびとネコのバトル	石崎朔太郎		いし	さき	さく	たろう	北九州市立 高見小学校	二年
	特別な存在	田中莉桜		た	なか	り	お	北九州市立 池田小学校	六年
	この後何しよう	濱口結衣		はま	ぐち	ゆ	い	横浜市立 港北小学校	四年
	豆の芽	石橋風人		いし	はし	かぜ	と	北九州市立 池田小学校	六年

最終候補作品

せんそうだ

もり やま きよ か
森山澄香
北九州市立
池田小学校
五年

町と森

あり た しゅう う
有田志優
北九州市立
池田小学校
六年

シヨン城

ちぢわ ま こ
千々和茉莉
北九州市立
池田小学校
六年

泣いてるぼくらと笑ってる人

おお た けい じ
大田慶士
北九州市立
池田小学校
六年

ままつてきもちいい

かみ ひら もも か
上村桃加
北九州市立
井堀小学校
二年

かわいい弟と妹

とみ た み さ ぎ
富田みさぎ
北九州市立
井堀小学校
四年

夏休み

かき もと さ え か
垣本彩栄香
北九州市立
曽根東小学校
三年

きのこ

にし おか
西岡ちよの
木津川市立
城山台小学校
二年

一日の始まり

うち だ さ く ち
内田咲良
北九州市立
戸畑中央小学校
六年

左きき

しろ い し
白石あさひ
敬愛小学校
三年

おかいこさん

まえ だ は な
前田葉奈
北九州市立
小倉中央小学校
四年

ありは人より小さい

なか した さ き や
中下沙耶
北九州市立
池田小学校
五年

エイのあこがれ

あくね ゆう き
阿久根優希
北九州市立
池田小学校
六年

ぼくはカニ

しゅう や わ なる
勝谷亘
北九州市立
富野小学校
五年

クレンゲーム

さぶらう まる ふう
三郎丸楓
北九州市立
井堀小学校
二年

痛かった思い出

おき ゆい か
沖結花
横浜市立
港北小学校
四年

花は生きている

おか だ り あ な
岡田梨愛奈
北九州市立
池田小学校
五年

終わらない

こ み な み り ま へい
小南涼平
北九州市立
池田小学校
六年

小学生の部 応募総数169点

中学生の部

受賞作品

最優秀賞	理科室について	小笠原	快	麻布中学校	二年
宗 左 近 賞					
最優秀賞	風のとに残るもの	中 村	きらら	北九州市立 松ヶ江中学校	一年
みずかみかずよ賞					
優秀賞	青い空に	松 本	空 也	北九州市立 松ヶ江中学校	一年
北九州市長賞					
優秀賞	踊る	劉	昕 萌	九州国際大学 付属中学校	一年
北九州市教育長賞					
優秀賞	スキップ	中 川	幹	九州国際大学 付属中学校	一年
北九州市立文学館長賞					
佳 作	人たる者の生涯	高 田	咲 愛	春日市立 春日北中学校	三年
	風の宅配	芳 賀	堇	国府台女子学院 中学部	一年
	覚えていない祖母の話	鬼 束	士 郎	九州国際大学 付属中学校	一年
	雲外蒼天	桑 名	優 空	郡山市立 大槻中学校	一年
赤		土 屋	舞 桜	豊橋市立 豊城中学校	二年
塩 水		西 本	陽 香	横浜市立 松本中学校	一年
月		野 原	啓 太	岩国市立 灘中学校	一年
	わかっているのに	千 手	眞 太郎	九州国際大学 付属中学校	一年
	僕の家のカメレオン	神 徳	充 生	北九州市立 松ヶ江中学校	一年
	人生行路	吉 國	友 美 乃	明治学園中学校	三年

最終候補作品

声	鞭馬啓	九州国際大学 付属中学校	一年
言葉	西口愛空	新城市立 千郷中学校	三年
怒り	中村友希	岩国市立 灘中学校	一年
夜空を見上げて	藏重陽賢	九州国際大学 付属中学校	一年
お姉ちゃんだから	大坪知穂	九州国際大学 付属中学校	一年
一気に地獄	矢吹悠太	岩国市立 灘中学校	一年
耳遊び	加子崎千咲	岩国市立 灘中学校	一年
私VS舞台	今澤こはる	岩国市立 灘中学校	一年
550万円の割りばし	奥田優人	青翔開智中学校	一年
私	長嶺玲衣	九州国際大学 付属中学校	一年
「しんゆう」?	岡田結菜	九州国際大学 付属中学校	一年
人さらい	松木優祐	九州国際大学 付属中学校	一年
一輪の向日葵	木村英那	九州国際大学 付属中学校	一年
沈む窓	松浦陽向	北九州市立 尾倉中学校	一年
雨時限定	岩根由奈	岩国市立 灘中学校	一年
消えた色	西山咲良	北九州市立 高生中学校	三年
植木ばちの思い	石井叶汰	岩国市立 灘中学校	一年
夜明けの唄	野入桃子	明治学園中学校	一年
比較	河内健吾	九州国際大学 付属中学校	一年
みちしるべ	松井咲樹	北九州市立 尾倉中学校	一年
遠くても	松崎仁心	九州国際大学 付属中学校	一年

中学生の部 応募総数647点

選
考
委
員

最終選考委員

平出 隆

二次選考委員

大川内 夏樹

岩下 祥子

山崎 純治

北川 尊士

増本 美和

一次選考委員

大川内 夏樹

岩下 祥子

山崎 純治

第十六回

「あなたにあいたくて
生まれてきた詩」
コンクール

—こころはちやこころ、こころはふかく—

令和七年度

作品集

二〇二六年一月三十一日発行

編集・発行

北九州市立文学館

〒八〇三・〇八三

北九州市小倉北区城内四番一号

TEL 〇九三・五七一・一五〇五

FAX 〇九三・五七一・二五三三

印刷・製本 (有)青雲印刷

※本書掲載の記事及び写真の
無断転載・複製を禁じます。

※この作品集は「宗左近ファンクラブ」
のご協力により作成しています



Kitakyushu
Literature Museum